

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第43週（10月19日～10月25日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 手洗い、咳エチケットが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第43週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は750例であり、前週比4.7%増であった。昨年同週比57.0%減（2019年 第43週1,744例）と少ない状況である。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ1.89、0.58、0.49、0.44、0.19である。

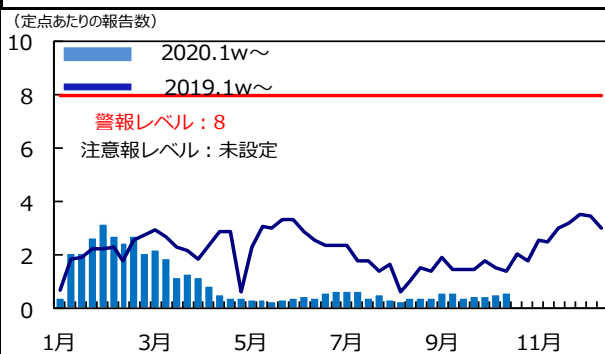
感染性胃腸炎は前週比5%増の371例で、泉州2.90、大阪市南部2.88、南河内2.50、中河内2.40、北河内2.12であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比15%増の114例で、大阪市南部1.00、中河内0.85、北河内0.81である。ヘルパンギーナは前週比3%増の97例で、大阪市南部1.12、南河内1.06、堺市0.79であった。

咽頭結膜熱は前週比12%増の38例で、大阪市南部0.53、大阪市東部0.33、大阪市北部0.29である。

インフルエンザは1例減の1例であり、昨年同週比98.7%減（2019年 第43週 77例）と少ない状況である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎

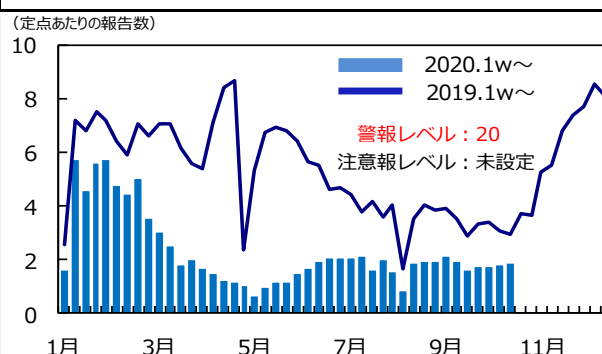


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第43週10月19日～10月25日）

第43週 の順位	第42週 の順位	感染症	2020年 第43週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第43週の 定点あたり 報告数	2020年第43週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.89	5%増	2.95	1歳_17%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.58	15%増	1.43	4歳_19%
3	3	ヘルパンギーナ	0.49	3%増	0.19	2歳_37%
4	4	突発性発しん	0.44	19%増	0.32	1歳_57%
5	5	咽頭結膜熱	0.19	12%増	0.37	1歳_55%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	50%減	0.26	20歳以上_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第43週のコメント

～ 破傷風 ～ 大阪府では、年間10名未満の報告があります

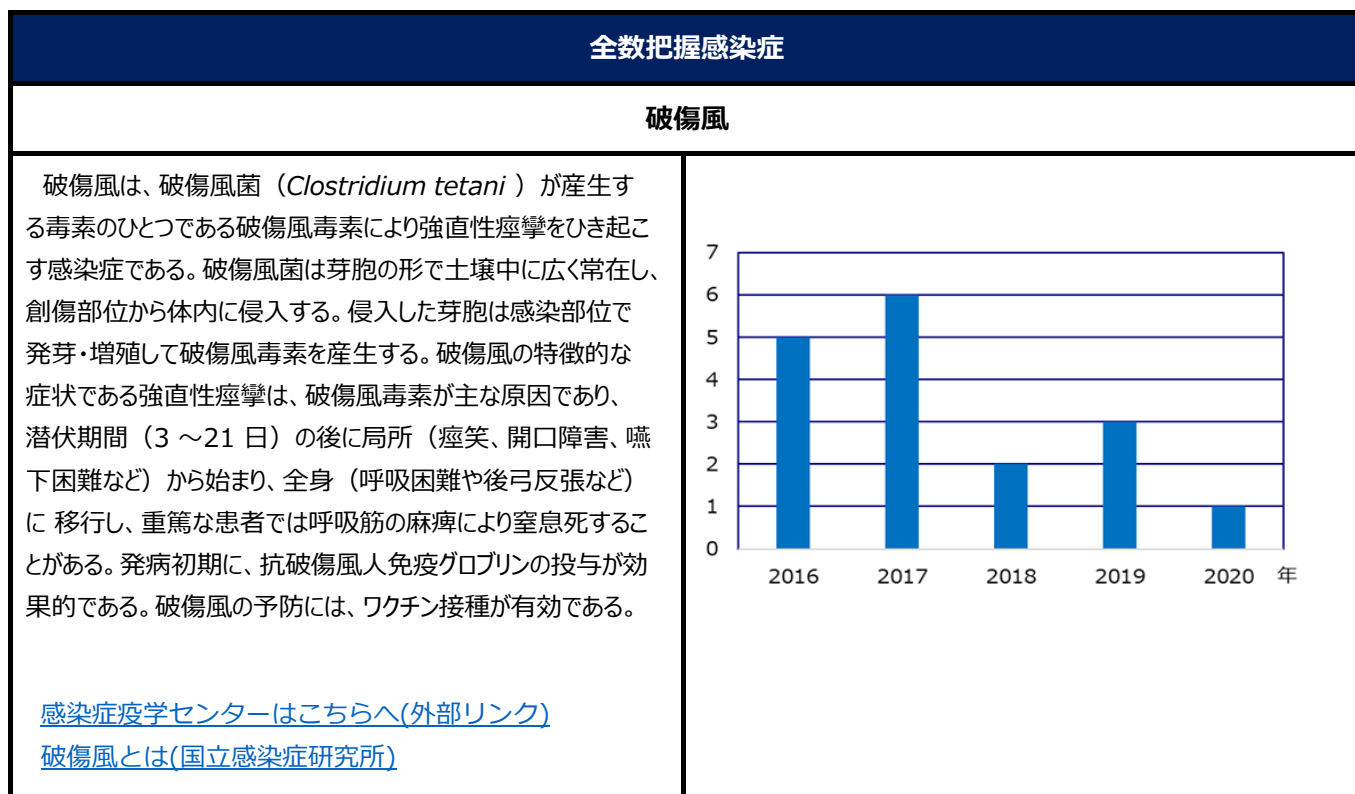


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第43週10月19日～10月25日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4			1					3	134
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	3					1			2	88
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2								2	122
	梅毒	11		1	1	2				7	735
	破傷風	1			1						1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1							1		2
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	532									12,048
結核 (2020年8月分)	結核 新登録患者数：112名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 40名) (府内累積報告数 976名、内 肺・喀痰塗抹陽性 355名)										

(2020年10月27日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、10月19日から10月25日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)